

園芸タイムリー情報

《5月中・下旬版》

令和2年 5月18日発行 第1号
 上川農業改良普及センター
 Tel : 0166-84-2017 Fax : 0166-84-2009
 E-mail : asahi-nokai.11@pref.hokkaido.lg.jp
 HomePage : http://www.kamikawa.pref.hokkaido.lg.jp/ss/nkc/index.htm

全作物共通

1 施設栽培


- 気象情報に留意し、低温が予測される場合はハウスやトンネルを早めに閉めるなどし、作物の生育適温を確保しましょう。
- 日中急激にハウス内温度が上昇することがあります。高温障害や生理障害が助長されますので、換気を十分に行うなど、作物の生育適温を確保しましょう。
- 高温・乾燥時は、作物の生育や土壌の水分状況をしっかり確認し、適切なかん水管理に努めましょう。
- 今後、田植え作業等で忙しくなるのでハウス管理には十分注意しましょう。



2 露地栽培

- ほ場準備が遅れる場合、苗の老化防止に努めるとともに、地温や土壌水分を十分確保してから定植しましょう。
- 局所的な大雨が年々増えています。明きょ等を事前に設置しておきましょう。

※本資料に記載の農薬や資材は「地域で推奨するもの」を使用し、倍率や収穫前日数に十分留意して使用してください。

作物名	トマト・中玉トマト・ミニトマト	
病虫害 生理障害名		
発生状況		
発生時期	果実での発生 枯れた葉での発生	
発生時期	4月下旬～	
発生の状況・要因		
<ul style="list-style-type: none"> ・わずかに発生が見られる程度であるが、例年発生が増加してくる時期なので注意が必要である。 ・発病適温は20℃前後で、多湿時に発生しやすい。 ・換気が不十分で湿度が高い、茎葉や果実に水滴がついたまま乾かないといった状態は発生を助長する。 ・枯れた花弁、がく枯れ、植え傷みや葉先枯れで傷んだ葉等の枯死部分や、芽かき跡の傷口などから侵入し発生しやすい。 		
対策		
<ul style="list-style-type: none"> ・換気を心がけ、ハウス内湿度の低下に努める。 ・芽かきや摘葉は、晴天日の午前中に終わらせ傷口を乾かす。 ・薬剤散布を行う場合は晴天日の早朝に行い、午前中に薬液を乾かすよう努める。 <p>＜防除の一例＞予防散布で効果の期待できる剤</p> <ul style="list-style-type: none"> ●ダコニール1000 1,000倍 収穫前日まで トマト（直径3cm以下を除く）：4回以内、ミニトマト：2回以内 ※中玉トマトはサイズにより分類されます。 ●タフパール（微生物剤） 2,000～4,000倍 発病前～発病初期 		

作物名	トマト・中玉トマト・ミニトマト	
病虫害 生理障害名	葉かび病・すすかび病	
発生状況		
発生時期	5月上旬～	
発生時期	葉表の病斑（葉かび病） 	
発生時期	葉裏のカビ 上：葉かび病 下：すすかび病 (病徴では判別困難)	
発生の状況・要因		
<ul style="list-style-type: none"> ・育苗期間中のミニトマトで葉かび病の発生が見られた。 ・両病害ともよく似た病斑を形成し、葉裏にかびが見られる。 ・葉かび病は20～25℃、すすかび病は26～28℃で発生しやすく、共に多湿条件で発生が多くなる。 		
対策		
<ul style="list-style-type: none"> ・短時間でもトンネルやハウスの換気を行い、湿度低下に努める。 ・予防効果の高いダコニール1000、ベルコートフロアブル、微生物農薬を中心とした予防的防除を定期的に行う。 ・発生が増加する場合は、被害葉の除去と下記の治療効果のある薬剤等での防除を行う。 <p>＜発生確認後の防除の一例＞（トマト・中玉・ミニトマト共通）</p> <ul style="list-style-type: none"> ●ファンタジスタ顆粒水和剤 2,000～3,000倍 収穫前日まで 3回以内 ●トリフミン水和剤 葉かび病：3,000～5,000倍 収穫前日まで 5回以内 すすかび病：3,000倍 収穫前日まで 5回以内 		

作物名	すいか・メロン	
病虫害 生理障害名	菌核病	
発生状況		
発生時期	菌核病菌が検出されたすいかの葉の症状(下) 	
発生時期	—	
発生の状況・要因		
<ul style="list-style-type: none"> ・つるの分岐部や果実の花落ち部に白色のかび（菌糸）を生じて腐敗し黒色の菌核を形成する。 ・20℃前後の比較的低温が続き、多湿の場合に発生が多くなる。 ・すいかやメロンでは、着果期を過ぎ茎葉が繁茂したハウスで発生が多くなる。 		

対策	
<ul style="list-style-type: none"> ・換気を心がけ、ハウス内湿度の低下に努める。 ・着果期前より予防防除を実施する。 ・被害茎葉・果実は見つけしだい除去し、ほ場外へ搬出する。 	
<p>＜防除の一例＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ●スミレックス水和剤 すいか 1,000～2,000倍 収穫7日前まで 5回以内 メロン 2,000倍 収穫前日まで 3回以内 ※スミレックスくん煙顆粒は、メロンには登録がなく使用できません。 ●カンタスドライフロアブル すいか・メロン：1,000～1,500倍 収穫前日まで 3回以内 	

作物名	あぶらな科野菜全般	
病虫害生理障害名	コナガ成虫	
コナガ		防虫ネットは侵入口となる隙間を作らないよう設置
発生状況		コナガ幼虫
発生に注意		
発生時期	5月下旬～	
発生の状況・要因		
<ul style="list-style-type: none"> 幼虫が葉裏に潜み、葉の表皮を残して食害する。 5月1日に成虫の初発が確認され、今後は幼虫の発生に注意が必要である。 気温が高かった5月2～4日は多数の成虫の飛来が確認された。 		
対策		
<ul style="list-style-type: none"> ほ場内外の雑草をこまめに除草する。 トンネルかけの場合は、雑草によりネットが持ち上がるため、除草も併せて実施する（写真右参照）。 品目により薬剤の登録内容が違っているので、ラベルを確認してから使用する。 ジアミド系（プレバソフフロアブル5等）への薬剤抵抗性個体群の出現があり、防除効果が劣る場合は他系統の薬剤に切り替える。 		

作物名	たまねぎ	
病虫害生理障害名	ネギハモグリバエ	2019/6/5撮影 発生初期の症状 → 
発生状況		←発生拡大後の様子
発生に注意		
発生時期	5月下旬～	
発生の状況・要因		
<ul style="list-style-type: none"> 第1回目の発生は5月下旬頃からとなる。 発生初期は葉身部に縦並びの白色小斑点（写真上）を生じる（食痕・産卵痕など）。 幼虫がふ化し、白色すじ状の食害が拡大する（写真下）。 葉数の少ない株では著しい生育不良や枯死株が発生する。 		
対策		
<ul style="list-style-type: none"> 白い線状の幼虫被害が発生してからでは、防除効果が得られにくい。 5月中旬から成虫の食痕を観察し、食痕を観察したら速やかに薬剤防除を行う。 葉身部全体に薬液が付着するように、展着剤を加用する。 		
<p><防除の一例></p> <ul style="list-style-type: none"> ●リーフガード顆粒水和剤 1,500倍 収穫 3日前まで 3回以内 ●ベネビアOD 2,000倍 収穫14日前まで 3回以内 ※ いずれの薬剤も展着剤を加用する（まくびか 5,000倍）。 		

- ◆農薬の使用に当たっては、使用基準を必ず守りましょう。
なお、品目ごとの栽培防除体系を基に減農薬でクリーンな野菜生産を実践しましょう。
- ◆防虫ネット・近紫外線カットフィルム・粘着シートなどを活用し、適切な栽培管理と合わせ、病虫害の発生を最小限に抑制しましょう。

※この情報は、上川農業改良普及センター本所地域(旭川市、鷹栖町、当麻町、比布町、愛別町、上川町)向けに作成されています。
気象・土壌条件・作業体系から当地域以外には、適用されませんので十分ご注意ください。(不利益・損害などが発生した場合、当方は責任を負うことはできません)
※掲載されている農薬情報は、令和2年5月13日現在の登録内容となっていますので、活用の際は、あらかじめ安全使用基準を確認くださいますようお願いいたします。

■□■□■□■□ GAP手法の活用 □■□■□■□
【農作業事故編】
ー農作業事故の防止は日頃の安全確認からー

- ・作業は計画的に行い、定期的に休憩を取りましょう。
- ・農機の点検や清掃、異物除去等を行う際には、必ずエンジンを停止しましょう。
- ・危険を伴う作業（ハウスビニール脱着など高所作業等）を行う際は、安全確認を必ず行いましょう。
- ・お互い声かけできる範囲内で作業を行い、なるべく「ひとり作業」は控えましょう。